

『(仮称)新編一宮町史』編さんだより 創刊号

発行者：一宮町教育委員会 〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮 2461
TEL:0475-42-1416 FAX:0475-42-1424 E-mail:syakai@town.ichinomiya.chiba.jp

「冥福をお祈りします。」

2019年の大河ドラマ「いだてん」。その初回に、日本体育会会長として、一宮町ゆかりの加納久宜（1848～1919）が登場したことは記憶に新しいと思います。クレジットで名前も登場したことにより、一躍その存在が知られることとなりました。

演じたのは俳優の辻萬長さん。2022年の大河ドラマへも出演予定でしたが、今年8月に77歳で逝去されました。心からお悔やみ申し上げますとともに、「冥福をお祈りします。」

上総広常、大河ドラマ登場

2022年の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に、「一宮町ゆかりの上総広常（？）1183」が登場します。演じるのは俳優の佐藤浩市さん。広常がどのように描かれるのか、楽しみです。

町の広報誌「広報いちのみや」では令和3年5月号から、特集「上総広常の実像を探る」を連載しています。興味のある方は是非ご覧ください。

情報求む、歴史資料を探っています

新しい『一宮町史』の編さんのため、古い資料や古文書、昔の写真、絵葉書などの情報を集めています。

「家庭で撮影されたスナップ写真も、当時の『一宮』を知ることができる貴重な資料です。歴史資料の保存、寄贈、寄託の相談も受け付けております。

また、町の歴史や戦時中の体験、幼い頃の記憶などお話しただけの方がおうれしかったです。ご連絡ください（コロナの感染状況に応じて対応させていただきます）。

「提供いただいた資料、伺ったお話の内容の扱いには、十分配慮いたします。

皆様からの情報をお待ちしております。
お宅に残る古い資料、捨てる前にご連絡を！

一宮町史編さん準備委員会発足

令和3年(2021)4月、教育委員会にて「一宮町史編さん準備委員会設置要綱」が制定、7月1日付で施行されました。

この準備委員会では、令和4年度に編さん委員会を立ち上げることを目指し、町史の編さんの方針や編さん期間など事業計画の提言書を作成いたします。令和3年度中に3回の会議を予定し、提言書が町教育委員会に提出された時点で解散となり、編さん委員会に移行されます。

準備委員には町内の文化財関係団体である文化財審議委員会、文化協会、上総一宮郷土史研究会からそれぞれ2名を推薦いただき、計6名の方が7月12日付で委嘱されました。7月末には東京2020オリンピック競技大会の開催、8月には新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、千葉県下3度目の緊急事態宣言が発令されたため、会議がなかなか開催できまらなかったが、10月21日(木)に第1回目の会議を開催いたしました。

この会議で次のことが決定しました。

- (一) 準備委員会委員長に小川力也氏、副委員長に渡邊恵之助氏
- (二) 新しい町史の名称(案)は『新編一宮町史』

今後2回の会議で編さん方針や編さん期間・計画等を協議・検討していきます。会議の様子は随時、「編さんだより」でお伝えします。

『一宮町史』とは？

『町史』とは、町の歴史や文化、自然についてまとめられたものです。日本全国様々な都道府県・市町村で『〇〇県史』『〇〇市史』のようなタイトルで作成されていることが多いです。千葉県の場合は、平成3年(1999)から18か年計画で、『千葉県史』51巻(『千葉県の歴史』39巻、『千葉県の自然誌』12巻)が編さん、刊行されました(昭和時代には『旧県史』と呼ばれる歴史資料も刊行されていま

編集後記

『(仮称)新編一宮町史編さんだより』創刊号をお送りします。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中ではありますが、いよいよ新しい『町史』の編さんに向けて、動き始めました。このような状況です。調査はほとんど進んでいませんが、できることから地道に進めていきたいと思えます。本紙面では定期的に、『町史』の編さん状況や町の文化財情報を発信していきます。また町が所蔵する歴史資料も紹介していきます。

現在、『町史』の資料編第1弾となる『一宮町歴史叢書第1集 旧斎藤家文書第二次調査報告書』を編集中です。令和4年初頭には刊行予定(有償頒布)となっております。報告書刊行を記念した講座(報告会)を企画しておりますが、コロナの感染状況によっては中止となる可能性もありますのでご了承ください。

随時、町の資料の調査を進めていきたいと思えます。皆様のご協力よろしくお祈りします。

(記：町教育委員会 江澤)

『一宮町史』(以下『町史』)は昭和39年(1964)に刊行されました。

一宮町・東浪見村の合併10周年記念の意味合いもあり、急遽編さんが決まり、わずか10ヶ月で編さんされました。通常、5～15年の計画で編さんされることが多いので、かなり短期間での編さんでした。

当時の編さん委員長も「時日の制約のために完全なものづくり得なかった」、「将来この町史の及ばなかったところを補い、さらによい『一宮町史』のできることを、心より念願してやまないものである(原文ママ)」と「あとがき」に記しています。

そのため、『町史』の再編さんは長年の当町の課題でもありました。

『町史』が刊行された昭和39年はアジア初の東京オリンピックが開催された年。そして令和3年、1年延期となった東京2020オリンピック競技大会が開催されたこの年に、今回、新たな『町史』の編さんに向けて動き出すこととなりました。

町民の皆さま、専門家の方々と共に、よりよい『一宮町史』を作り上げていきたいと思えます。ご協力よろしくお祈りします。

歴史資料展示室を拡張しました

今年6月に公民館2階に開室した歴史資料展示室。8月2日から緊急事態宣言が発令されたことを受けて、公民館を含んだ町内の社会教育施設は臨時休館となりました。

この期間を利用して、資料室を拡張しました。また、常設展示として東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）より令和2年度に寄贈された上総一ノ宮駅の旧看板や旧駅舎窓を展示するコーナーを設けました。

今年度は今後左記の予定で展示を行ってまいります。ぜひご覧ください

令和3年度第2回企画展示

◆テーマ「北沢楽天と一宮」

◆とき 令和3年12月20日(月)

◆主な展示資料

- ・北沢楽天年賀状
- ・北沢楽天筆「乃木大将」
- ・北沢いの（楽天夫人）書簡
- ・北沢楽天書簡
- ・一宮実業会理事徽章 など

令和3年度第3回企画展示

◆テーマ

「町長就任110年

加納久宜町長と一宮町」

◆とき 令和4年1月7日(金)

3月24日(月)

◆主な展示資料

- ・加納久宜油絵
- ・加納久宜書簡
- ・加納久宜掛け軸

ほか

□会場 一宮町歴史資料展示室

(一宮町中央公民館2階ロビー)

(長生郡一宮町一宮2460)

□開室時間

【日・月曜日・祝日】

午前8時30分～午後5時

【火・土曜日】

午前8時30分～午後9時

□休室日

第三日曜日、年末年始(12月28日～1月3日)、その他臨時休館日

※新型コロナウイルス感染症の感染状況により休館する場合があります。詳細はHPをご覧ください。

国立歴史民俗博物館企画展示で町所蔵資料が展示されます。

国立歴史民俗博物館で10月から開催中の企画展に、町教育委員会所蔵「教育勅語謄本奉安箱」、一宮小学校所蔵「一宮尋常高等小学校沿革誌(大正十二年分)」が展示されます。

◆テーマ

令和3年度企画展示

「学びの歴史像―わたりあう近代―」

◆概要

「人々は何を学んできたのか、なぜ学ぶのか」について、19世紀後半以降、日本列島に近代国民国家が成立していく様相とともに、「学び」という視点から紐解く。

◆とき 12月12日(日)

午前9時30分～午後4時30分

(入館は午後4時まで)

※土・日・祝日、会期末(12月7日～12日)の入場には、オンラインによる日時指定(事前予約)が必要です。

※最新の情報は「れきはくホームページ」をご覧ください。

◆ところ

国立歴史民俗博物館企画展示室A・B

(佐倉市城内町117)

◆入館料 一般 1000円

大学生 500円

高校生以下 無料

◆問い合わせ

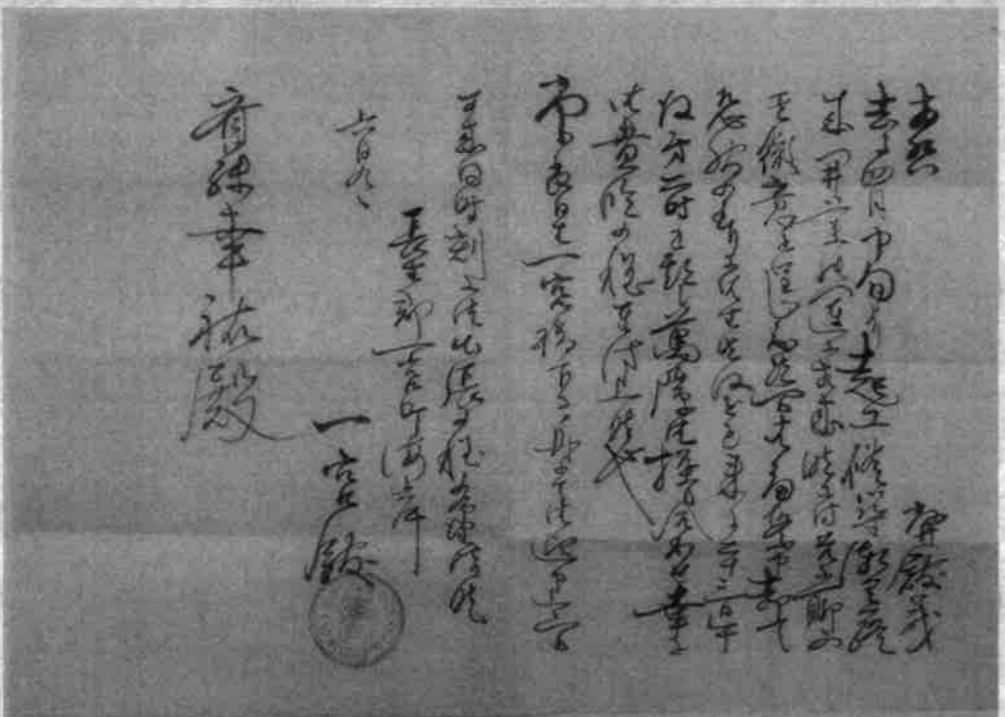
ハローダイヤル

050・5541・8600

古文書紹介①

明治三十年(一八九七)カ

一宮館開業通知(「旧齋藤家文書第二次調査」目録番号C32-17)



拝啓、

去る四月中旬より起工修築漸く落成開業の運に相成候に付、茲に聊か其微意を呈し度候間、御多繁中却て恐縮の至りに御座候得ども、来る二十二日午前第二時を期し万障御繰り合わせ幸に御貴臨の程奉待上候也

尚当日者一宮橋下に舟にて御迎申上候間、可成同時刻に御出張の程希望仕り候、

六月九日

長生郡一宮町海岸

一宮館印

齋藤幸祐殿

齋藤幸祐殿

齋藤幸祐殿

齋藤幸祐殿

齋藤幸祐殿

齋藤幸祐殿

齋藤幸祐殿

齋藤幸祐殿

齋藤幸祐殿

齋藤幸祐殿

齋藤幸祐殿

齋藤幸祐殿

齋藤幸祐殿

齋藤幸祐殿

齋藤幸祐殿

齋藤幸祐殿

齋藤幸祐殿

齋藤幸祐殿

齋藤幸祐殿

齋藤幸祐殿

齋藤幸祐殿



▲一宮館印(拡大)

【史料の解説】

一宮館は明治三十年(一八九七)に一宮川河口に開業した旅館です。

大正5年(1916)には文人・芥川龍之介(1892～1927)が友人・久米正雄(1891～1952)とともにこの旅館に滞在しています。

芥川が滞在した当時の一宮館の離れは、「芥川荘」として現存し、国の登録有形文化財となっています。

この書簡は一宮館から齋藤孝祐(1861～1916)に宛てた開業の通知です。現在の国道沿いに寿屋本店という饅節問屋を営んでいた孝祐に対して、船で迎えに上がると記されています。

このような観光旅館の開業の契機は明治三十年四月に一宮まで鉄道が延伸したことが挙げられます。明治三十二年(一八九九)には対岸に青松館(現在の一宮学園周辺)という旅館も開業しており、一宮館は一宮における旅館開業の先駆けといえるでしょう。